

2022年4月11日

## 新型コロナウイルス感染症による嗅覚・味覚障害について

一般社団法人 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）で特徴的であるとされた上気道炎症状に先行して急性に発症する嗅覚・味覚障害は、現在主流となっている変異株 B.1.1.529 系統（オミクロン株）では減少しています。一方で、COVID-19 罹患後に後遺症として嗅覚・味覚障害を訴える患者さんも一定数存在し、その多くが異嗅症、異味症を自覚し食欲の低下から身体面、精神面の不調をきたします。現時点で COVID-19 により発症し長期間持続する嗅覚・味覚障害に対する治療法は確立しておりませんが、鼻副鼻腔炎が存在する場合、ステロイドの全身あるいは局所投与などで改善する場合があります。また鼻副鼻腔に異常を認めない場合、嗅神経性嗅覚障害とし通常の感冒後嗅覚障害治療に準じて、当帰芍薬散や嗅覚刺激療法が有効である可能性があります。味覚障害患者で血清亜鉛が低値を示す場合は、亜鉛製剤投与の適応と考えられます。

会員の皆様におかれましては、嗅覚・味覚障害の治療には長期を要する旨を患者さんに説明し、精神面でのサポートも含めた診療をお願いします。

「嗅覚障害診療ガイドライン」（2017年初版）

[https://minds.jcqh.or.jp/docs/gl\\_pdf/G0001102/4/Olfactory%20disturbance.pdf](https://minds.jcqh.or.jp/docs/gl_pdf/G0001102/4/Olfactory%20disturbance.pdf)